日本大学工学部
校友会報
第 46 号
昭和60年 9 月 1 日

目　　次

ごあいさつ……2
昭和60年度第28回通常総会報告…3～4
雑　感……5～7
同窓会・支部だより……8～9
校友短信……9～10
キャンパスミニメモ……11
昭和61年度入学試験
事務局だよりなど……12

阿武隈川の対岸から眺めた母校の遠景
東北新幹線の車窓からもこれと同景が見られる

ごあいさつ

日本大学工学部事務局長
石田昭二

今回工学部校友会報の発行にあたり、この度私にその執筆の機会を与えられましたことは、この上ない喜びとするものであります。現在本学部の卒業生は２５０００余名を数えるまでになりました。学部創立以来３８年という長い歴史を刻むことが出来ましたのも、偏に、それぞれの分野に於て全国各地でご活躍されている校友諸氏の日頃母校に寄せるあたたかいご協力・ご支援の賜と深く感謝の念を抱くものであります。

ここで日本の将来をみると、資源の乏しい我が国が、より経済の安定を計り繁栄を維持していく為には、どうしても工業・技術立国として世界に対抗して行かなければならない運命にあります。このため、先端技術をはじめとして、あらゆる科学技術の開発を余儀なくせまられておりますことは衆知のことと存じます。しかしこうした中で、現在おかれている国際社会の立場から日本の現状をみますと、我が国の科学技術の進歩発展はまことにめざましく、その水準が急速に欧米先進諸国に迫ったばかりか、なかには世界をリードする水準に達したものもあります。しかしながら、その実情をふり返りますと、まだまだ先進諸国からの技術導入によって開化したものが、少なくありません。ともあれ成熟した工業社会を実現したいまこそ、「奪う者から与える者へ」「依存から創造へ」と大きな転換を迫られている現状にあっては、なおさら、高等教育機関に、より熱い視点が向けられるのも必然かと思います。

そこで本学部としましても教育・研究内容の充実を計り、教育システムを大きく変化させていかなければならないと思います。「基礎科学の重視」「変化する社会情勢に対応できる能力の育成」は当然であり、創造性に富む技術者の育成に全力を注いでいくことが、本学部の社会的責任であり、また義務ではないかと思います。これらの点を遂行するにあたりまして、本学部といたしましても、諸事情の見直し、検討を計ると共に、より一層の環境・設備の充実を押し進めていこうと思います。卒業生諸氏の足跡をさらに厚くする為にも鋭意努力する所存でおりますので、今後共校友諸氏のご協力・ご支援を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。校友各位の益々のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、挨拶といたします。

（日本大学評議員、参事）

ごあいさつ

日本大学工学部校友会長
武田仁幸

昭和60年度通常総会は、多数の会員諸兄にお集まり頂き、盛会のうちに無事終了致しました。また、今年は、懇親会を倉田、廣川、外木、三先生の謝恩会として開催し、和やかな歓談のひと時を過ごすとともに、本学専門部工科として開設以来、37年間の長きにわたって教鞭をとられた三先生への感謝と、今後の御健勝を御祈念申し上げました。現在、倉田先生は御自宅で自適の生活を過ごされ、廣川、外木両先生は本学顧問の要職に就かれ、また、名誉教授として後進の指導にあたっておられます。

今年度の本学の受験志望者数は、早稲田大学を抜いて、第一位になりました。工学部においても、志望者数が激増し、本郷学部長によれば、学力レベルの高い学生が集まってきたとのことです。この入学生の高い学力レベルを向上させ、さらに個々の持つ優れた特性を見抜いて、それを伸ばしてゆくことで、全人格的な陶冶を実現するのが、大学教育の本質だと思います。さらに、彼らに日本大学建学の精神と、日大魂を理解し、真の母校愛を抱いてもらうことが、校友会活動の本質だと思います。

我が日本大学は、昭和64年10月４日、創立100周年を迎えます。100周年記念事業のための募金目標額は、100億円と決定致しました。私も 100周年実行委員の一人として、募金活動の責をおわされました。一口に100億円と申しますが、これは莫大な金額であり、その目標を達成するのは、至難の業であると申せましょう。90周年記念事業の際にも、募金には相当の御苦労があったと耳にしております。しかしながら、同様の事業を抱えるある大学では、150億円の目標に200億円以上が集まり、また、現在100周年記念事業として、キャンパス移転を計画しているある大学でも、 200億円の目標に対して、それ以上の申込みが来ていると聞いております。この両校は、子弟の母校への入学を希望する校友の多いことが、募金目標の達成に大きく寄与したとのことです。本学におきましても、目標を上回る額の募金に御協力頂けますようお願い申し上げます。
なお、募金の趣意書は後日、校友、校友経営の企業、教職員、在校生父兄の許に送付される予定です。

今年も、７月13日より、全国各支部の総会に出席させて頂き、会員諸兄が相互協力し、地域の発展に努力している姿を目のあたりにして、「日本大学建学の精神、今だ健在なり」の感を新たにしました。会員諸兄の益々の御発展と御健勝をお祈り申し上げます。

（土木工学科３回卒、東和工業㈱）

昭和60年度第28回通常総会報告
並びに倉田・廣川・外木三先生の謝恩会を開催

第28回通常総会は、菜種の花がまっさかりの4月20日(土)午後2時より、東京・市ケ谷にある日本大学会館大講堂において、遠路九州を始め全国各地から、会員多数の出席のもとに盛大に開催された。

特に本総会は、工学部育ての恩師、倉田、廣川、外木三先生の謝恩会をかねて東京開催となったもので、時も良く、東北・上越新幹線が3月14日に上野駅へ乗り入れとなった記念すべき年でもある。

総会は半沢副会長の開会の辞により始まり、ひきつづき武田会長より次のような挨拶があった。

本総会は、会報第45号でお知らせした通り、敬愛する恩師、倉田先生、廣川先生、外木先生の謝恩会を兼ねた総会となったこと、この一年間、皆さんの御協力によって会務を無事に遂行できたこと、校友会運営費

について、校友会は年間2,200～2,300万円ほどの予算によって運営しており、その財源は、入会金10,000円終身会費5,000円によってまかなっているが、卒業生の数と終身会費とのバランスがとれずに、基本財産よりの繰入れ金が多くなってきているので、近年中に終身会費の値上げを考えている。

次いで議長に石崎光隆(土3回)、書記に野田吉弘

(化19回)、新田公博(土33回)、議事録署名人に佐藤司(土5回)、安藤栄保(土32回)の各氏がそれぞれ選出され、議長挨拶の後、議事に入った。

議事の結果は下記の通りです。

報告第1号　昭和59年度会務報告について
承認第1号　昭和59年度一般会計収支決算について
承認第2号　昭和59年度特別会計収支決算について
議案第1号　昭和60年度事業計画について
議案第2号　昭和60年度一般会計収支予算について
議案第3号　昭和60年度特別会計収支予算について

報告第1号：村田事業部長より、会員の状況、会務の状況、財産の状況について説明報告があり、審議の結果、特に質疑なく異議なく承認された。

承認第1号：承認第2号は関連があるので、一括して、小川経理部長より説明報告があり、引続き会計監査を代表して、小栗治男氏が、すべて適正であったことを認める旨の報告がなされ、審議の結果、質疑もなく原案通り承認された。

議案第1号：武藤副会長より提案説明があり、審議の結果、質疑もなく原案通り承認された。

議案第2号：議案第3号は、一括して半沢副会長が提案説明され、審議の結果、特に質疑もなく原案通り承認された。

以上で、全議事、議案が議決承認されました。

最後に、武田会長から(1)本日の東京開催に際して、特に東京支部長に大変お世話になったこと。(2)会の財産内容は、年々会員増に伴い赤字となっているので、60年度以降終身会費の値上げを考えたい。(現在の5,000円を10,000円にする)。(3)年2回発行の会報は、最終頁までよくご覧になっていただきたい。(4)終りに、皆さんの御協力により、わが校友会を更に充実して、

立派な会にしてゆきたいので、よろしくお願いしたいとの要望があった。

以上全議案の審議を終り、武藤副会長の閉会のことばで総会を終了した。

引続き多数の来賓を迎え、前記三先生の謝恩会を兼ねて、懇親会に移り、本部代表の池田常務理事・本郷工学部長の祝辞があった後、三先生に記念品、花束贈

呈を行い、永年にわたり母校の発展につくされ、重責を全うされた功績を称えた。ついで各先生の謝辞があった後、三先生を囲み懇談、祝宴に移り、定刻までなごやかに想い出話を交え歓談が続けられ、最後に万才三唱、校歌を斉唱し、散会を惜しみつつ、午後5時閉会した。

昭和59年度一般会計収支決算書

歳　入

単位 円　△…減

款項		種目	予算額	決算額	比較増減	附記
会費	1	移身会費	5,000	5,500,000	5,495,000	
	2	入会金	10,000	12,300,000	12,290,000	
		計	15,000	17,800,000	17,785,000	
繰越金	3	前年度繰越金	21,046,131	21,046,131	0	
		計	21,046,131	21,046,131	0	
繰入金	4	基本財産より繰入金	1,634,728	1,634,728	0	
		計	1,634,728	1,634,728	0	
雑入	5	預金利子	400,000	503,171	103,171	
	6	職員負担金	340,000	339,134	△ 866	
	7	名簿代金	20,000	179,900	159,900	
	8	雑収入	4,141	1,890	△ 2,251	
		計	764,141	1,024,095	259,954	
合計			23,460,000	41,504,954	18,044,954	

歳　出

款項		種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減	附記
事務費	1	給料手当	3,830,000	0	3,830,000	3,814,907	△ 15,093	
	2	保険料	550,000	0	550,000	546,426	△ 3,574	
	3	交通費	520,000	0	520,000	518,000	△ 2,000	
	4	旅費	60,000	△ 110	59,890	56,930	△ 3,960	交際費へ
	5	交際費	460,000	70,110	470,110	470,110	0	旅費より 110 雑費より 69,900
	6	消耗品費	120,000	0	120,000	116,686	△ 3,314	
	7	備品費	140,000	0	140,000	130,000	△ 10,000	
	8	印刷製本費	140,000	0	140,000	138,350	△ 1,650	
	9	通信運搬費	310,000	0	310,000	308,820	△ 1,180	
	10	修繕維持費	10,000	0	10,000	0	△ 10,000	
	11	光熱水費	40,000	0	40,000	30,000	△ 10,000	
	12	雑費	150,000	0	150,000	142,780	△ 7,220	
		計	6,270,000	70,000	6,340,000	6,267,009	△ 72,991	
事業費	13	組織対策費	700,000	△ 21,958	678,042	350,000	△ 328,042	会報発行費へ
	14	会報発行費	5,240,000	21,958	5,261,958	5,261,958	0	組織対策費より
	15	会員管理費	1,860,000	70,500	1,930,500	1,930,500	0	旅費より
	16	名簿作成費	420,000	0	420,000	419,648	△ 352	
	17	下宿対策費	10,000	0	10,000	7,661	△ 2,339	
	18	図書供与費	500,000	0	500,000	500,000	0	
	19	式典費	2,160,000	0	2,160,000	2,125,200	△ 34,800	
	20	母校訪問費	220,000	0	220,000	176,310	△ 43,690	
	21	負担補助 図書費	850,000	100,000	950,000	950,000	0	予備費より
	22	旅費	490,000	△ 70,500	419,500	238,850	△ 180,650	会員管理費へ
		計	12,390,000	100,000	12,490,000	11,960,127	△ 529,873	
会議費	23	総会費	490,000	△ 1,550	488,450	466,090	△ 22,360	役員会費へ
	24	役員会費	430,000	1,550	431,550	431,550	0	総会費より
	25	連絡協議会費	500,000	△ 10,150	489,850	426,362	△ 63,488	旅費へ
	26	旅費	640,000	10,150	650,150	650,150	0	連絡協議会費より
		計	2,060,000	0	2,060,000	1,974,152	△ 85,848	
繰出金	27	職員退職給与積立金特別会計繰出金	240,000	0	240,000	232,560	△ 7,440	
		計	240,000	0	240,000	232,560	△ 7,440	
積立金	28	積立金	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0	
		計	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0	
予備費	29	予備費	500,000	△ 170,000	330,000	0	△ 330,000	役員費へ 70,000 負担補助図書費へ 100,000
		計	500,000	△ 170,000	330,000	0	△ 330,000	
合計			23,460,000	0	23,460,000	22,433,848	△1,026,152	

歳入額　41,504,954円

歳出額　22,433,848円

差引残額　19,071,106円を翌年度へ繰越すものとする。

財産の状況（昭和60年度3月31日）

基本財産	引当財産	運用財産	合計
12,027,628円	1,987,007円	19,071,106円	33,085,741円

雑　感

三愛プラント工業株式会社
取締役社長　森　本　　淵

今年の猛暑は、又格別ですが、校友の皆様には、ますますお元気にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

私は、昭和33年３月に第６期生として卒業してから早や27年、現在リコー三愛グループの一員であります三愛石油㈱取締役羽田支社企画室々長と、三愛プラント工業㈱の取締役社長を拝命致し、経営者として、その任の重大さを認識しつつ頑張っております。

さて、この度校友会事務局より、校友会報の原稿を要望され、何度も固辞しましたが、事務局の熱意にほだされ、しぶしぶ引受ける羽目になってしまいました。

毎晩12時過ぎの帰宅と、出張の多い私には、疲れてなかなかペンを取る気にはなれず、提出期限もとうに過ぎてしまい、それにつけてもやはりもっと強く断わればよかったと後悔しております。

今回は、やっとの思いで出張先の神戸のホテルと、新幹線のグリーン車の中で原稿の下書きをまとめ、愚妻に清書させた夫婦合作であります。ペンの進むまゝ思い浮かぶまゝ綴りましたのでお許し下さい。

去年から私は、２・３回母校を訪ねる機会を持ちましたが、何回訪ねても良いものは母校であり、何回想い出しても、懐しく有難いものは、恩師であります。

母校を思う気持が自ずと湧いてきますのは、大学の伝統に憧れ、希望に燃えた青春時代をそこで過した事、在学時代の教授の人格にあると思います。教授を慕い、尊敬し、指導を受けた想い出が母校を思う気持にさせていくものだと信じています。

27年前、私が卒業した当時は、景気が多少なりともよくなり、技術者の求人が増えてきつゝあった頃で、当時今の郡山の発展振りや工学部の発展振りは、到底想像もし得なかった事であります。それに引き替え、今でも変らないものは、あの美しい磐梯、安達太良山系と阿武隈山系の間を縫って走る阿武隈川の流れとアカシヤの林であります。私はそれらの景色を眺めた時、大変懐かしく、うれしく思い時計の針が逆戻りして青春時代に立ち返ったような錯覚に落ちいった程でした。

しかしこのような感傷に浸っている時ではありません。

私は母校の事について、常々思っている事を書いてみたいと思います。

私達が学んだ当時の機械工学科は、材料力学、熱力学、水力学の三力は、必修科目でありましたが、今ではこれら三力を修得しなくても卒業出来ると聞いて唖然としました。これら三力が、もうずうっと以前から必修科目でないと聞いて、又驚かされました。

人間は、基本が第一であると思います。これら三力は、機械技術者にとって基本であります。今は職業が多様化しこのような基礎技術を身につけなくても、飯の食うのには事欠かないかもしれません。又よしんば必要とされてもコンピューターのキーの叩き方を知っていれば、理論は知らなくても、設計計算はコンピューターがしてくれる時代であります。しかしこのような基礎科目を修得した者としない者とでは、物の考え方が違う、判断基準が違う。そうして修得した者は、信念をもって決断実行出来る技術者に育って行くと私は思っております。基礎科目を修得しない者は、社会に出てから、技術に関係しない職についた者や、自ら自覚し勉強してゆく者は別として、概ね上司のご機嫌を伺い部下に威張り散らす情無い技術者になりさがって行くか、自信のない事なかれ主義の技術者になって行くのが落ちであります。技術者の目的を知らずして技術者になっている技術者が何と多いことか。

私はこの基礎科目が社会に出てから必ずしも必要であるとは思いません。しかし技術者としての人格形成には、必要且つ充分なる要素の一つだと思っています。私は、日大工学部において基礎科目である三力が必修科目でないと驚きましたが、一方ではこれからは、技術者でなくてもコンピューターの力を借りて、簡単な設計まで出来る時代になると思います。

ですから、尚更、技術者の教育はより高度な技術を要求されるようになると思います。それ故、私は、ＯＢの一人として大学当局に対し、三力を必修科目にするよう強く要望するものであります。我々ＯＢは、母校の発展を心から願い、心から喜ぶ者であります。

今、15年以降の将来を考える時、大学志望者数の減少により私大の経営が困難に落ち入る事は、想像に難くない。幼稚園児の減少を見れば一目了然であります。大学の信用や人気は、一朝一夕につくものではありません。よい卒業生を数多く世に送り出すことが先決であり、卒業生達の社会的評価が、その大学の評価であると私は常々考えています。

よい卒業生を世に送りだすためには、よい志望学生が競って全国から集って来なければなりません。しか

し、現在の一般サラリーマンの家庭で二人の子供を私立大学に入学させる事は、なかなか容易な事ではありません。まして下宿させて通学させる事は、至難の業であります。従って世の親達は、私立大学ならば下宿しなくても、自宅から通学可能な都内の大学を志望させる傾向が強い。その為都内には、工学部関係で昔は大した事もなかった大学でも、今や相当のレベルにまで伸上がって来ている大学が幾校もあります。

日大工学部の名のもとに胡坐をかいては、なりません。企業でも同じでありますが、将来の事を考え中期、長期経営計画を立て、常に環境変化、状況変化に応じて速やかに修正を加え、実行に移して行かねばなりません。儲かっているからといって油断していれば、業績はすぐに落ちる。時代の変化について行かれなければ、会社は破産することさえあります。会社は、全員の生活がかかっているから、動員力はある。大学も同じだと思いますが、大学の場合、学生にとって生活を左右する問題でもなく、又直接的に利益につながらないため、仲々成果を上げる事は難しいと思います。

これからは、ますます社会の人材に対する要求度は高くなりますが、平均寿命の長くなるにつれて、若者の人生に対する目的意識が薄れ、大学を卒業する年令になっても自分の進路を決めかねている者が多く、又進学に対しても志望校や専門を安易に決める傾向が強くなって来ています。

しかし、これからの技術者は今迄もそうでありましたが、今迄以上に、信念、勇気、忍耐力、先見力、決断力を必要とされる時代になっていくものと私は思っています。

1トン幾ら、一人工幾らの商売をしている企業では、最早、飯の食えない時代になって来ています。ますます激しくなる貿易摩擦の中で日本の生きる道を摸索してゆかねばなりません。天然資源のない日本において貿易以外に生きる道はないのですが、4・5年後迄には必ず米国のドル高修正がなされ、1ドル160円前後になるものと推定されています。このように円高になれば、貿易の上に成立っている日本経済は、輸出の下降、輸入の自由化促進等により政府が内需拡大策を推進したと雖も相当な不景気にみまわれる事を、覚悟しなければなりません。このように日本の将来を展望する時、前途は多難であります。これからの日本が繁栄し世界に貢献していく為には、頭脳で勝負しなければならない時代になってきました。その為に社会は、優秀な技術者が必要であります。しかし、前述した通り出生率の低下により、近い将来進学率の低下、不況による親の負担の重荷等により、日大工学部の学生の質の低下は免れないと思います。

従って、今が大切であると思います。それには、10数年後の目標を定め、優秀な卒業生を社会に送り出し、社会にその実績を築き上げて行くより他に近道はないと思います。現在では、学閥的思想は衰え、実力のある者が活躍する時代であります。これからは、ますますその傾向になる思っています。

私は、日本大学工学部の卒業生として、母校の将来を思って次の事柄を提案するものであります。

第一に、語学力の強化であります。

私立大学の技術系の卒業生は、一般的に語学は弱いのですが、私もそうであった通り、特に日大工学部の卒業生は語学力がありません。これからは、世界の国々に物を売って商売するより、頭脳を売って商売して行かねばならない時代となりつつあります。物を売る商売と違い、頭脳を売って商売するには、技術者自身が直接相手に説明しなければなりません。それには、語学が必要であります。通訳を通じて話しても仲々信頼関係は生れて来ません。それにもましてこれからは、経済大国としての役割を充分認識し、世界のリーダーシップをとり得る国際的感覚、国際的視野の広い技術者育成が急務であると思います。それには、やはり語学が必要欠くべからざるものであります。

今では、語学は自分の心掛け次第で幾らでも独学できますが、郡山という国際的刺激の少ない環境下ではのんびり過してしまいがちだと思います。大学で、徹底した語学教育をお願いしたいものです。

第二に教授陣の強化であります。

私大は、経営が大切であると思います。優秀な教授陣を強化し、研究開発に力を入れていく事は無論の事、教授の個性と人格溢れる授業によって、信念、勇気、忍耐力を植えつける事が、如何に大切であるか、その時学生には分らなくても社会に出てから、知らず知らず影響を受けていた事を発見するでしょう。
素晴しい卒業生を世に続出させる事が、日大工学部の将来の発展につながって行くものだと思います。

私は、今考えてみると、私の人生観を変えさせたものは、外木有光先生であり、小林巌先生であり、岡部菅司先生であり、湯目董先生でありました。今は外木先生、唯お一人健在で、他の三人の先生方は、他界されてしまいましたが、この四人の先生方は、皆強靭な信念の持主であり、教育に熱意を持ち、厳しくしかも愛情をもって我々を指導して下さいました。心の深さを感じさせる先生方でありました。私は、現在もなお深く尊敬し、又感謝しております。

第三に必修科目再検討であります。

他の学科のことは解りませんが、機械工学科においては、材力、熱力、水力の三力は、必修科目にすべきであります。そうして先生方は、絶対に学生と妥協してはなりません。厳しく指導して戴きたい。妥協すれば必修科目にした意味がなくなるからであります。それよりも先生方独自の人格溢れる授業によって、学生諸君の信念と勇気と忍耐力とを培って戴きたい。これからは、ますますコンピューターが発達してコンピュ

ーターが総べての計算をしてくれる時代になると思いますが、そうなればなるほど、思考停止型技術者が多くなると思います。ただ日大工学部を卒業したという自負心のみ強い卒業生は、社会の落伍者になりかねない、名前だけでは、通らない世の中です。

第四に管理棟の建設であります。

日大工学部は、素晴しい自然に恵まれた広大なキャンパスをもちながら、今一歩のパンチが利いていない。校舎も我々が、学んだ当時とは全然予想もし得なかった事であり、他に見劣りしないものが沢山建設されている。しかし、パンチがない、やはり十数階建の管理棟をデンと建設すべきであると私は思います。

今、世の５０才台以上の者は日大工学部といえば、駿河台理工学部の事だと思い、郡山にあると思っていません。まして、若者は駿河台理工学部に憧れるが、工学部自体にあまり認識がない。

私は昨年から何回か工学部を訪問しましたが、新幹線より眺める母校はあまりにも、おとなしく質素で、ひっそりしている。教育の場において宣伝は必要ないという思想かもしれませんが、又私もそれが正しいと思い、本来ならばそうしなければ真の教育ではないと思っています。しかし、将来を考える時、現在が大切な時であり、今ＰＲしなければ将来優秀な学生は集って来ないと考える者であります。

将来、進学志望者の絶対数が減少する事が明白な今日、ＰＲは絶対に必要欠くべからざるものであると思います。一日何本もの新幹線が通り、何万人の人が、通過して行く新幹線を利用しない話はありません。

十数階建の管理棟を建て全国に大いにＰＲすべきだと考えます。広大なキャンパスがあり白亜の殿堂がある。これが大学のイメージです。

新幹線の乗客が、皆それとなくＰＲしてくれるはずであります。口コミのＰＲほど恐しいものはないし、また口コミほど有難いものはありません。

今の工学部は、あれだけ広大なキャンパスがありながら、新幹線から眺めると、公営住宅か何かにしか見えない。かろうじて、日本大学工学部という看板があるから、あ・そうかと思う程度で、看板が無ければ、大部分の新幹線利用客は、見逃しているだろう。

しかし教育はＰＲではない。技術者の目的は、真理の探求である。愚しい意見であると思われる方もいるかも知れません。しかし私は、私学の総合的レベルアップは教授陣の強化と、素質豊かな学生の採用にあると思います。将来を考えれば、尚更であります。それ故ＰＲが必要であると私は思っております。

幸いにして、新幹線の利用客がＰＲしてくれるはずであります。だからこそ、管理棟が必要であります。

以上私が日頃思っている事を述べて来ましたが、どこで流れを替えるか、どこで悪循環を断ち切って、良い循環に切り替えるかは、大学当局の決断であると思います。

一旦良い循環に入ると教授と学生が一体となり、良い成果を生み、社会的評価と相まって相乗効果的に、ますますよい結果を生むものだと思います。しかし、そのきっかけをどこで作るかは、非常に難しい問題です。

毎年社員の募集をお願いに上っています私が、このような意見を申し上げるのは、はなはだ僭越であると思っておりますが、母校を思えばこそ、母校の永遠なる発展を願えばこそ、私の本心を申し述べた次第です。

これからは、今迄のような経済成長はない、否あり得ないと思っています。だからこそ、企業の拡大はなかなか困難であります。拡大が計られなければ、昇進の道は、ますます厳しさを増すことでありましょう。

今後は、採手症候群、諦め症候群、マイホーム症候群が増加することであろう。日大工学部卒業者に一人でも、このような仲間入りをしないよう願うと同時に、技術者の理想に燃えロマンを求めて、命を張る卒業生が私は欲しいのであります。

結果は、ここに行き着きましたが、母校の発展と校友諸兄の発展を願ってやまないものであります。

最後に、編集者の皆様には、大変御迷惑をお掛けしました事を深くお詫びする次第です。

（機械工学科６回卒）

建築設備工事・金属防錆処理加工

三愛プラント工業株式会社

取締役社長　森本　淵　（機械工学科第６回卒業）

104 東京都中央区銀座８丁目９番４号(産金ビル) 電話 (03) ５７１－７７３１番（代表）

東京事業所　334 埼玉県川口市大字江戸袋下溜１丁目45番地(新郷工業団地) 電話 (0482) 84－8287番

関西事業所　676 兵庫県高砂市米田町古新字新田286番１号　電話 (0794) 32－0618番

同窓会・支部だより

専門部土木第１回卒業生同級会

大賀昭平

専門部土木工学科第１回卒業生の同級会を60年５月25日・26日、磐梯熱海温泉栄楽館にて開催しました。

今回の同級会は昭和25年に卒業し社会人として各々の分野で活躍して35年の月日が過ぎたので、学生時代の思い出や社会人としての苦労や楽しかったこと或いはお互の消息を語る同級会としました。

今回の参集範囲は県内在住者として26名在住者の内20名出席しまして時間も忘れてお互に語り合って盛会でした。（郡山建設事務所業務次長）

土木６回卒、同級会

秦　裕

土木６回生（昭和32年度卒）は７月27～28日、郡山市熱海町磐梯グランドホテルで、第３回の同級会を開催しました。第２回同級会は母校を訪ねる会に併わせて昭和57年10月23日に開催し、そのとき「３年後にまた会おう」の申し合わせにより開催したものであります。発起人及び実行委員は福島県在住在勤者が当り、２～３所在不明で呼びかけができないものもありましたが37名の参加と、大学から恩師の木村先生、杉内先生、校友会から武田会長（東和工業㈱社長）の御出席をいただき盛会裡に催すことができました。

北海道の石橋明君、沖縄の大城晃君、仙台の米川泰彦君、埼玉の千葉次男君、東京の秦野久美雄君は初参加で、卒業以来27年振りの再会はとてもなつかしく思いました。恩師の新田先生も出席を約束していてくれましたが、酷暑の中東京出張で体調をくずされ欠席となりとても残念でした。

この時期は夏休みなどで比較的時間に余裕があると思って企画しましたが、たまたま福島県下で会計検査と重なり参加できない方が６人もおりました。また参加を希望していながら急用で参加できない方も４人おりました。

本会は田母神忠孝君の司会で始まり、惜しくも他界された安部喜代志君、須郷一彦君、神田哲夫君、広浦富夫君の御冥福をお祈りしたのち、発起人を代表して浜津文雄君の挨拶、杉内先生、木村先生が学園近況報告を兼ねて御挨拶、校友会武田会長から歓迎と校友会活動の御挨拶をいただき、遠距離代表で沖縄の大城君が乾杯の音頭で宴会に入りました。

本会には27年振り、７年振り、３年振りに再会ということで、とまどいがあり顔と名前を一致させるのに少し時間がかかりましたが、学生時代の想い出にふけり、近況報告など話はつきず、短い夏の夜のふけるのも明けるのも忘れて話に花を咲かせました。

夏休みに故郷に帰って郡山の猛暑を知らないものは「郡山はこんなに暑いのか」とあきれ、27年振りに駅前辺りを散策したものは「今浦島さんの想い」と郡山の発展ぶりに感心しておりました。鉄筋コンクリートの校舎、実験棟が並ぶ学園を見たものは、木造の教室で柱のかげから首を右に左にしながら黒板の数式をノートしていた当時が一層なつかしく想い出されたことと思います。

第４回の同級会は北海道で３年後に開催することを申し合わせました。次回にはもっと多くの同級生が集まることを希望いたしまして報告といたします。

（郡山市水道局浄水課長）

建築第18回生同級会

杉田秀一

60年４月27日郡山磐梯熱海温泉「栄楽館」において建築18回生の同級会を卒業後15年振りに開催しました。我々同級生は250名という多人数おり郡山在住の同級生が、発起人となり今年始めから準備し、当日は静岡、新潟、東京等から30名の同級生が出席し、盛大に開催されました。大学からは、足立教授、小栗助教授、有賀講師に参加いただき大学の現況等を聞きました。又同級生諸氏の近況を聞き昔をなつかしく夜遅くまで歓談し楽しい一夜をすごしました。この次の同級会（65年に予定）にはさらに多くの同級生が、参加出来る事を約束し閉会しました。翌28日には、有志によるゴル

フ大会が行なわれました。なお我々の同級会の名称を、44年度卒業から「酔々会」という事でこれからもやっていきたいと思います。最後に同級生諸氏の益々の御活躍をお祈り致します。　（郡山市役所都市計画部）

郡山北工業高校、日大桜門会の近況

馬場彦吉

初夏の淡い緑が安積平野に、やすらぎと、希望を、もたらす頃、私共は毎年桜門会を開いております。

日大ＯＢの親睦と、歓送迎会、その他いろいろ兼ねております。

今回は武田会長さんはじめ、多数の来賓の方々の出席をいただきまして、たいへん盛大な会合になりました。

昭和59年度は「日大音楽の夕べ」への協力やボランティア活動、会員へのいろいろな協力活動等、微力ながら、地域社会にも目をむけて努力しております。

昭和60年度の会員は29名で、働き盛りで教育熱心なメンバーです。工業教育には特にエキスパートばかりそろっております。私共はお互に助けあって、心を一つにして、教育界で努力してまいります。校友の皆様からも、陰に、陽に、ご指導賜わりたいと思ってます。郡山に来られた折は、郡山北工業高校へぜひおたち寄りください。　（建築学科第15回卒）

支部等の総会

○**東海支部総会**（第15回）
60年７月13日（土）
名古屋市　ホテルキャッスルプラザ
参加会員　50名
本部から　武藤貞泰副会長
来　　賓　国分欽智教授ら14名

○**九州支部総会**（第６回）
60年７月13日（土）
福 岡 市　城山ホテル
参加会員　60名
本部から　武田仁幸会長
来　　賓　中野富士雄教授ら８名

○**北海道支部総会**（第12回）
60年７月16日（火）
札 幌 市　ホテルノースシティ
参加会員　50名
本部から　武田仁幸会長、村田吉晴理事
来　　賓　福地利夫教授ら９名

○**四国支部結成総会**
60年７月17日（水）
高 松 市　さぬき荘
参加会員　40名
本部から　武田仁幸会長、村田吉晴理事
来　　賓　国分欽智教授ら２名
支部長に、谷久嘉典（土８回）氏を選出

校　友　短　信

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承下さい。）

土木工学科

◆**松波清武**（13回卒、㈱熊谷組四国支店）
四国初の高速道路11km開通の工事を完了し、支店にいます。日大同窓会にも出席しています。
（60．４．22受）

◆**早川一胤**（14回卒、東京都水道局中央支所配水課）
校友各位の今後のご活躍を期待しています。校友会報に工学部の各研究室の研究の現状をレポートしていただけないでしょうか。
（60．４．22受）

◆**吉田清治**（20回卒、千葉県土木部銚子土木事務所維持課）
いつも会報をありがとう。母校や旧友の事など、なつかしく拝読しています。
（60．１．28受）

◆**木下勝男**（23回卒、埼玉県住宅都市部都市整備課）
60年4月1日付で中川下水道事務所から異動してきました。街路事業係として、今後は県の街づくり（街路、鉄道高架、首都高速、新交通等々）と経験のない仕事となります。

（60.4.16受）

◆**渡邊春喜**（32回卒、東京都大田区立南六郷中学校）
中学校の技術科教諭として、工学部の卒業生の名を穢さないようがんばっていきたいと思っています。

（60.1.21受）

建築学科

◆**岩田稼吉**（11回卒、㈱アサカ設計）
昭和54年に、母校の地名をとって設計事務所を設立し、今日までがんばっています。

（59.9.20受）

◆**新宮清志**（16回卒、日本大学理工学部海洋建築工学科助教授）
日本大学海外派遣研究員として、60年7月下旬より1年間、アメリカのピッツバーグのカーネギー・メロン大学に留学することになりました。

（60.5.2受）

◆**大野平雄**（19回卒、鹿島建設㈱国際事業本部）
現在、シンガポール営業所に勤務しています。

（60.6.19受）

◆**清水清司**（26回卒、九鉄工業㈱北九州支店建築課）
現在、国鉄九州総局門司建築区門司駐在建築管理係から九鉄工業に出向しています。

（60.4.23受）

◆**今村卓司**（27回卒、中村建築事務所）
社命でインドネシアへ出張中です。（59.10.5受）

機械工学科

◆**蔦谷　惇**（11回卒、㈱小松製作所技術本部実験課長）
6年前に九州に移りましたので、郡山が遠くなりました。10年ほど前、家族をつれて下宿（郡山市池の台11-8熊田方）を訪ね、大学にも寄ってきました。寮などの古い建屋がなくなり、新らしく立派な建物が多かったと記憶しています。

（59.9.17受）

◆**中山宗悦**（15回卒、臨済宗正覚禅寺住職）
お蔭様で、住職として働いております。座禅会等にご利用下さい。

（60.6.8受）

電気工学科

◆**伊集院正彦**（11回卒、鹿児島県教育センター情報処理教育研修室）
60年4月に、県教育庁学校教育課から異動してきました。61年度開所の情報処理教育センターの準備作業をしています。

（60.4.20受）

◆**石川　栄**（17回卒、東京コスモス電機㈱神奈川工場技術部設計課）
当社は可変抵抗器メーカーです。関連会社の白河コスモスには出張する機会もありますので、大学へも寄りたいと思っています。

（60.4.11受）

◆**大畠　稔**（19回卒、日立電子サービスＫＫ神奈川工場海外部）
57年からアメリカのカルフォルニアのサンチアゴに派遣されています。（60.4.16受）

◆**添田康一**（21回卒、山本電気工業㈱開発課）
63年までの予定で台湾工場に行っています。

（60.1.16受）

◆**角野弘幸**（27回卒、東京オートマチックコントロール㈱）
埼玉工場、東京営業本部、神奈川の海老名技術サービスを経て、59年6月から、滋賀技術サービスへ移りました。現在この事務所は私一人でまかされ、張切ってやっています。

（60.2.21受）

◆**浜野宗二**（28回卒、アイワ㈱ビデオ技術部）
現在、オーディオメーカーのアイワで、回路設計をする事3年になりました。就職してはや5年が過ぎ、今が一番充実しているように思います。

（60.4.9受）

◆**栗山芳行**（29回卒、富士通ネットワークエンジニアリング㈱）
富士通小山工場のＦＮＥシステム試験部第一試験課テストツールのハード・ソフト開発・設計の仕事をしています。

（60.5.7受）

噂のページ

◆**青山清道君**（土木13回卒）
新潟大学積雪地域災害研究センターで助教授をしておられますが、日頃の研究がみのり、60年3月19日に「新潟県の地すべり地の土の土質工学的特性に関する研究」で、日本大学（理工学研究科）から工学博士の学位が授与されました。（事務局）

◆**遠藤茂勝君**（土木14回卒）
日本大学生産工学部土木工学科で専任講師をしておられますが、日頃の研究がみのり、59年12月21日に、「越波を考慮した防波堤の計画高さに関する研究」で日本大学（生産工学研究科）から工学博士の学位が授与されました。（事務局）

CAMPUS

mini MEMO

◇校友の母校での教員

昭和60年4月1日付で昇格されました。

専任講師　柳沼　力夫（化7回卒）
　　野田　吉弘（化19回卒）理博
　　藤田　　豊（土20回卒）
　　橋谷田　実（電20回卒）

◇中村泰三先生御逝去

機械工学科の中村泰三先生は、昭和60年5月23日、病気のため逝去されました。享年44歳でした。中村先生は機械11回卒で、卒業後の昭和38年4月から本学に勤務、多くの後輩を薫陶されました。創立まもない校友会の役員もされて校友会発展のために尽力されました。ご冥福をお祈り致します。

◇四氏が講演

在学生に対して、今年度、次のような校友の講演がありました。

新入生歓迎講演会

4月8日

「エネルギー問題は我々の問題」

富田光雄氏（機5回卒、東京電力㈱燃料部次長）

就職講演会

土木工学科（6月19日）

「公務員から見た土木技術者の動向」

根本　亮氏（土3回卒、千葉県土木部技官）

機械工学科（7月3日）

「就職に関して」

森本　淵氏（機6回卒、三愛プラント工業㈱）

工業化学科（6月14日）

「技術開発と企業化」

岡村公介氏（化1回卒、コーティング工業㈱代表取締役）

◇日本大学大学院工学研究科だより

59年度、次の2人に工学博士の学位を授与。

林　守宏：溶接部及び鋳物のX線透過写真に現れる異常像に関する研究　59・9・28

橋本　純：ぜい性材料からなる円筒のガス内圧およびガス外圧による破壊　59・9・28

橋本（旧姓永田）氏は機械25回卒、現在、工学部に勤務しています。

◇新入生学外研修に一泊研修

新入生の学外研修は、5月初旬にバス旅行として毎年行なわれていたが、60年度は、これに代って、一泊研修として、入学式後のオリエンテーションの期間に行なわれた。

4月10日～11日

土木工学科　芦の牧温泉大川荘
　翌日　大川ダム見学

建築学科　飯坂温泉ホテル聚楽

機械工学科　那須高原那須ロイヤルセンター
　翌日　殺生石見学

電気工学科　東山温泉ホテル東鳳
　二日にわたって、鶴ヶ城・飯盛山を観光

工業化学科　土湯温泉山水荘
　翌日　猪苗代湖観光

◇体育会関係各部の活躍（60年1月～60年7月）

○スキー部

第5回日刊スポーツ旗争奪オールジャパン志賀大会

距離リレー　男子　2位

距離個人　男子　2位　伊藤春彦

○射撃部

東北ライフル射撃選手権大会

エアーライフル三姿勢60発　2位　田中昌宏

○硬式野球部

第10回吾妻杯争奪大学野球選手権大会　優勝

○ボディビル部

春期東北学生パワーリフティング大会

団体　2位　個人　1位　立花健司

○洋弓部

1985年度春季南奥羽アーチェリー選手権大会

団体男子　2位　個人女子　1位　浜津由美子

第6回東北学生アーチェリーフィルド競射会

個人男子　1位　金杉　繁

○ゴルフ部

日本大学学部対抗戦春季大会　団体　優勝

個人　優勝　笹原康司

○陸上競技部

東北地区大学総合体育大会

ハンマー投げ　1位　石塚伸二

○ボクシング部

東北地区大学ボクシングトーナメント大会

2位　皆川直人　石田　茂

○空手道部

東北地区大学総合体育大会　団体戦組手　準優勝

個人戦型の部　準優勝　水野　仁

（この項、学生課調べ）

（た）

昭和61年度入学試験 ―― 日本大学工学部

◆入学試験

○募集人員　土木工学科・建築学科／機械工学科・電気工学科　各130名
工業化学科　80名

○試験日　昭和61年2月15日(土)

○試験場　東京試験　日本大学経済学部　ほか
郡山試験　日本大学工学部

○試験科目　数　学―数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計（ただし統計を除く）
理　科―「理科Ⅰ（物理の分野）、物理」、「理科Ⅰ（化学の分野）、化学」のうちから1科目選択
外国語―英語Ⅰ、英語Ⅱ

○出願期間　昭和61年1月10日(金)～2月8日(土)

◆推薦入学

○出願資格
1．指定高等学校を昭和61年3月卒業見込の者
2．学業成績は評定平均値の平均が、普通科と理数科では3.8以上、工業系では4.3以上の者
3．工業系の者は本人が履習している専門科と同一の学科に出願できる。

○推薦人員
一高等学校から2名以内

○募集人員　約215名

○選考日　昭和60年11月25日(月)
（英語・数学の参考試験、作文及び面接を行う。）

問い合わせ先　日本大学工学部入試係
（電話0249―44―1300）

日本大学創立100周年記念事業の募金要領について

①募金目標額　100億円
②募金期間　昭和62年6月～昭和66年5月
③個人の募金額　1口5万円なるべく2口以上
④募金の方法　在学生の父兄、校友、大学関係者、役・教職員、その他の賛同者に趣意書を配布し、任意の寄付を募集する。

（日本大学創立100周年記念事業第1回募金実行委員会協議事項より）

〔事務局だより〕

- 第5回「母校を訪ねる会」は、学部祭最終日の10月20日（日）開催予定です。今回は、第二工学部第13回卒業生が対象ですが、それ以外のOBの皆さんの参加も歓迎いたします。ご出席の際は、事前にご連絡ください。
- 会報は年2回（3月と9月）発行して卒業生全員にお届けしておりますが、転居先不明等で返送されてくるのが、毎回200～300通あります。住所或いは勤務先変更の折は、忘れずに事務局にお知らせください。
- 工学部校友会の会員総合名簿は、概ね5年ごとに発行しておりますが、次回は62年発行予定です。なお、前回（57年10月）発行しました名簿が若干残っております。希望者には、1部2,500円（送料不要の場合は、2,000円）で配布しておりますので、お申込ください。
- 同窓会やOB会等を催すときは、事前に事務局にご連絡ください。名簿等資料をお送りいたします。

北海道支部
支部長　長谷川清廣（土14回）丸松舘建設㈱
事務局長　松久房夫（土19回）札幌市下水道局

東京支部
支部長　古村和夫（土3回）古村建設㈱

東海支部
支部長　平野　卓（土3回）東京エンジニアリング㈱名古屋支社
事務局長　河野　叶（土6回）福徳建設㈱

九州支部
支部長　矢俣敏之（建8回）㈱大林組　福岡支店
事務局長　陶山順一（建15回）㈱陶山建設

四国支部
支部長　谷久嘉典（土8回）㈲谷久工務店

校友会報第46号

発行部数　28,800部
発行所　日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号　963―11
電話番号　郡山(0249)44―1327
振替口座番号　郡山5―1990
発行日　昭和60年9月1日
発行者代表　会長　武田仁幸
編集者代表　事務局長　佐藤光正